

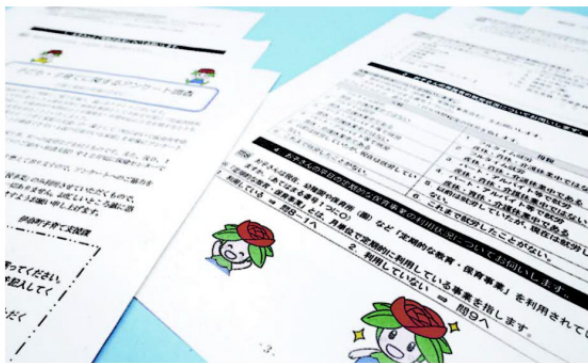
「空白の期間」支援届かず

虐待の2割 未就園で孤立

核家族化が進み、地域のつながりも薄れる中で、保育所や幼稚園は育児での孤立を防ぐ役割を担う。一方、未就園の家庭が抱える悩みは見えずらく、小学校入学前には行政の関わりがない「空白の期間」も。国や自治体の支援は遅れている。(1面関連)

「親の思い受け止めを」

表層
深層



埼玉県伊奈町が実施した子育てに関するアンケート。定期的な保育所などの利用状況を尋ねる設問がある(右下)

2017年12月、埼玉東伊奈町の自宅で岩井心ちゃん(4)が低体温症により死亡した。直前に廊下でお漏らしをし、下半身裸のまま1時間ほど掃除を命じられていた。入浴後も「寒い、寒い」と言い、16年2月に同町に転入した

2017年12月、埼玉東伊奈町の自宅で岩井心ちゃん(4)が低体温症により死亡した。直前に廊下でお漏らしをし、下半身裸のまま1時間ほど掃除を命じられていた。入浴後も「寒い、寒い」と言い、16年2月に同町に転入した

異変向き合えず

最初の異変は同年7月。雨の中、Tシャツ1枚で庭にいた心ちゃんを住民が見

が、父は空調設備の仕事に忙しく、母は2人の育児に追われた。

心ちゃんのお漏らしは続き、注意すると顔を背けたため、両親は秋以降、繰り返し暴行を加えた。食べ過ぎを気にして食事の量を減らし、事件前にはスプーンで1〜2口しか食べられないほどに衰弱。公判ではそのころ母が第3子を妊娠中、夜中に近所を歩き回るなど情緒不安定になったこ

心ちゃんのお漏らしは続き、注意すると顔を背けたため、両親は秋以降、繰り返し暴行を加えた。食べ過ぎを気にして食事の量を減らし、事件前にはスプーンで1〜2口しか食べられないほどに衰弱。公判ではそのころ母が第3子を妊娠中、夜中に近所を歩き回るなど情緒不安定になったこ

「子育てつらい」

新型コロナウイルス禍をきっかけに未就園世帯への家庭訪問を始めたのは大阪府高槻市。外出自粛で親から「子育てがつらい」といった相談が増えたため、孤立すれば虐待リスクが高まるかと判断したからだ。昨年は3〜5歳の約360

つけ町に通報した。心ちゃんは引越す前にトイレの練習が進んでいたが、再び失敗。母は職員に「謝らないうので外に出した」と説明した。

心ちゃんは18年4月から幼稚園の年中クラスに通う予定だった。伊奈町は今回の事業の検証過程で、3歳児健診以降に行政が関われない「エアポケット」が生まれることに着目。支援が必要かどうかを把握するため、21年度から未就園の家庭にアンケートを送った上で、民生委員らが絵本などを持って訪れ、様子を聞く取り組みを始めた。

NPO法人「児童虐待防止全国ネットワーク」の高祖智子理事は、孤立した親や他の親とつながりをつくる起点になると指摘。現状は就労要件などのハードルがあるが「誰もが当たり前のようにするべきだ」と話した。

その後の面談で「娘をたたくことがある」と漏らし、職員は虐待に当たると指摘。子育て支援センターを紹介したものの、17年2月の3歳児健診では特に異常が見当たらず、「SOS」に深く向き合うことはなかった。

心ちゃんは18年4月から幼稚園の年中クラスに通う予定だった。伊奈町は今回の事業の検証過程で、3歳児健診以降に行政が関われない「エアポケット」が生まれることに着目。支援が必要かどうかを把握するため、21年度から未就園の家庭にアンケートを送った上で、民生委員らが絵本などを持って訪れ、様子を聞く取り組みを始めた。

NPO法人「児童虐待防止全国ネットワーク」の高祖智子理事は、孤立した親や他の親とつながりをつくる起点になると指摘。現状は就労要件などのハードルがあるが「誰もが当たり前のようにするべきだ」と話した。

無園児 保育所や幼稚園などに通っていない小学校入学前の0〜5歳児。支援がない(無援)、周囲とのつながりが乏しい(無縁)との意味も含め、子育て支援団体などがこうした表現を用いている。国は「未就園児」と呼ぶ。厚生労働省によると、2019年度で全国に推計約182万人(認可外施設や企業主導型保育事業を利用する子どもを含む)。保護者が家庭での養育を選んだケースのほか、低所得や多子、外国籍の世帯が多いとの研究もある。

世帯を訪れ、「転勤してきただけで頼るあてがない」などの訴えに耳を傾けた。共同通信が行った児童虐待の検証報告書の分析では「保育所などに通わず」「無園児」となる背景に、支援情報の不足などさまざまな事情があることが分かった。